

●里山農園の巣箱に モンスズメバチの巣を発見 吉村君が見つける

モンスズメバチは日中から活動していますが、日が暮れても活動することが知られています。他のスズメバチの仲間は暗くなってから活動することはほとんどありません。ですから、夜間にカブトムシなどを取りに行った際にも気をつけたい昆虫です。ヨーロッパでは「モンスズメバチに3回刺されると死ぬ」という迷信のようなものもあったようです。その結果、かなり数を減らした地域もあるようで、今では絶滅危惧種に指定されている地域もあります。モンスズメバチは比較的攻撃性が高いスズメバチになります。オオスズメバチほど毒性は強くありませんが、危険なことに変わりありません。見つけてもむやみに近づくなど刺激しないように気をつけましょう。

●中沢君が「カブトムシ・クワガタムシを守る取り組み」 15枚の画面を使って説明。 7月26日(土)

少なくなっている原因を①気温上昇②土地開発による生育地の減少③人気で採る人の増加ではないかと説明されました。また京田辺市の特徴は天井川と言えるのではないかと、そして子どもは風

の子といわれるように自然と遊ぶことで多くのことを学び取り成長すると強調されました。他の発表者からは特産品はナス、エビ芋、タケノコで生産者の減少が課題で、玉露生産では日本一

を幾度も得るほど優れた技術の街であり、茶色のお茶から緑茶へ製法を編み出した永谷宗円が紹介されました。日本一高い木は京都の花脊にあり、木津川には917種の植物が生育できていて絶滅寸前種が8つもあり、山では4億年前の生き物ヤマトサンショウウオが生息する自然環境を持っている誇れる街だとお話ししました。現地現場に出かけて本物を見たり触れたりすることが大事と強く語り上杉鷹山の「為せば成る」の言葉で締めくくりました。11時過ぎから松かさツリー作りや竹エンピツつくりなどに挑戦いただき参加者全員が楽しい工作をしました。現在の養蚕につかわれている「魯桑(ロソウ)」、古代の鷹山に使われていた「唐桑(カラグワ)」をこの日の朝から森島副理事長が普賢寺川堤で採取して来て下さり、葉の厚さを実感する体験も行いました。

を幾度も得るほど優れた技術の街であり、茶色のお茶から緑茶へ製法を編み出した永谷宗円が紹介されました。日本一高い木は京都の花脊にあり、木津川には917種の植物が生育できていて絶滅寸前種が8つもあり、山では4億年前の生き物ヤマトサンショウウオが生息する自然環境を持っている誇れる街だとお話ししました。現地現場に出かけて本物を見たり触れたりすることが大事と強く語り上杉鷹山の「為せば成る」の言葉で締めくくりました。11時過ぎから松かさツリー作りや竹エンピツつくりなどに挑戦いただき参加者全員が楽しい工作をしました。現在の養蚕につかわれている「魯桑(ロソウ)」、古代の鷹山に使われていた「唐桑(カラグワ)」をこの日の朝から森島副理事長が普賢寺川堤で採取して来て下さり、葉の厚さを実感する体験も行いました。

カブトムシ・クワガタムシを守る取り組み

自然を大切にする仲間の輪を大きくする

NPO法人やましろ里山の会
ふるさと京田辺を学ぶ講座
2025年7月26日
中沢洋斗

今回の話の主人公は

カブトムシ

クワガタムシ

考えられる原因

- ① 気温上昇
- ② 土地開発に伴う生育地減少
- ③ 人気で捕る人が増加



●この夜開かれた「夜の生き物調べ」で20時ごろに集まってきたのは2470匹の虫たちでした。

7月26日前後の京田辺市の気温は36

度という厳しい暑さが続いていました。前日の準備も大変な暑さの中での作業でしたがスタッフの皆さんには大奮闘をいただきました。そして16時集合開始ですので、午前中の取組で頑張った第2段階の開始ですから休み間も無く頑張ってくださいました。集まった皆さんは35人の参加者でした。里山農園は虫の観察が出来るように通路部分以外には除草作業を控えて、集まった虫好きの子ども達は元気に農園の中を駆け回り、網を振りまわりました。こうして捕まえたものを桜谷先生や



